

「校内研修プログラム」の活用事例

～発達障がいを抱えた児童生徒支援のための校内研修～

【活用するシート】
Ⅲ-2 授業づくり

研修時間
20分間

主な内容		
○ 発達障がいのある子どもに対する教師の配慮例を参考にし、自己の授業と比較検討することで、具体的な指導について理解を深める研修		
手 順		
準 備	<ul style="list-style-type: none"> 「Ⅲ-2 授業づくり」のシート あらかじめ「導入」「展開」「終末」の3つにグループを分ける。 	
タイムテーブル	3分	1 研修のねらいの確認 <ul style="list-style-type: none"> 日常の自己の授業を振り返り、発達障がいのある子どもの興味関心を高めるための配慮について考える。
	1分	2 研修方法の説明 <ul style="list-style-type: none"> 演習の進め方について 「発達障がいのある子どもに対する教師の配慮の例」を基に、自身の授業を振り返る。
	2分	3 シートを活用した演習 ① 発達障がいのある子どもに対する教師の配慮の例をチェックする。
	7分	② グループで協議・交流 <ul style="list-style-type: none"> チェックした項目から、特に重点を置く項目を1つグループで選択する。 チェックした項目から、今後学級全体として『これだけは』という内容を決める。
	5分	③ 全体交流 <ul style="list-style-type: none"> グループ協議の内容を交流する。
2分	4 まとめ・振り返り	
事後の取組		
○ グループでの協議をまとめ、配付する。		

ここがポイント!
短時間で協議を行うため、グループで自己の授業を振り返ったときに、一番チェックの多かった項目を選択します。

研修シート(試案) Ⅲ-2 授業づくり

◎ ねらい
通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮について考え、授業づくりで心がけていくことを整理する。

1 授業中の配慮

※ 配慮の例で、学校として1つ～2つを重点として定め、全学級で取り組むことが考えられます。
 ※ 配慮の例で、個人として既に取り組んでいるものは□を塗りつぶすなど、自己研修に使うこともできます。
 ※ 授業の展開は、その時間の目標や位置付けに応じて定めてください。

過程	子どもの主な学習活動	発達障がいのある子どもに対する教師の配慮の例
導 入	■ 子どもが何を、どのように学ぶかを見通すことができる。	◎ 興味・関心を高めるよう工夫する。 □ 課題を視覚的に理解できるようにする。 □ 話す内容を精選し、簡潔な発問、指示をする。 □ 考え方や解き方を説明する(ICT機器等の活用など)。 □ 教師が説明した内容を理解したかどうかを確認する。 □ 本時の学習のねらいを示す。 など
展 開	■ 子どもが目標の実現に向けて、主体的に学習することができる。	◎ 集中して取り組めるよう工夫する。 □ 考え方や解き方の説明をもとに、取り組むよう促す。 □ しやべらないで、集中して学習するよう促す。 □ 一人で解決することがむずかしい子には、教師が付いて、その子の状況に応じた方法(視覚的支援、操作活動の支援、スモールステップの取組の支援、演示や助言、問答など)で教える。 □ 取組の途中で、その子なりのがんばりをほめる。 など
終 末	■ 子どもが学習を振り返り、何を学んだのかを自覚することができる。	◎ 学んだことを理解できるように工夫する。 □ 考え方や解き方をまとめる(ICT機器等の活用など)。 □ 本時の学習で分かったことを確認する。 □ 練習問題への取組を促し、一人一人の状況を確認する。 不十分な場合は、その子の状況に応じた方法で教える。 ※ 必要に応じて、難易度の違う練習問題を用意しておく。 など

【授業全般を通じた配慮の例】

- 教師の発言
 - 教師の言葉を減らす、好意に満ちた言葉がけとなるよう心がける など
- 板書
 - 大事なことは線で囲む、ノートのマスや行に合わせる、色分けする など
- プリント
 - 読みやすい位置で改行する、写真や絵の境目をはっきりする、振り仮名を大きくし、読みやすくする など

2 振り返り

○ 説明が短く、わかりやすい指示は、子どもたちの理解を促進し、授業を進める上で非常に重要な要素であることを再認識しました。
 ○ 子どもが分かるように伝えようという思いから、つい話しすぎ、理解しづらい説明になっていることに気付きました。